九州ネット

報告

九州体育・保健体育ネットワーク研究会

鹿児島開催（鹿児島黒豚ラウンド） 令和8年７月11日（土） ハイブリッドにて開催

台風発生で開催が危ぶまれましたが、学期末のお忙しい中に、県内外から36人（オンライン参加11人を含む）の方々に参加いただき、九州体育・保健体育ネットワーク研究会<鹿児島黒豚ラウンド>を開催しました。今回のラウンドでは、体育・保健体育、健康、安全ワーキンググループの議論等を踏まえながら、学習指導要領改訂の趣旨や内容について考える機会となりました。

情報交換会では、「南の宝箱」と呼ばれる鹿児島の食材を楽しみながら、「見方・考え方って何が変わるの？」「4年生までの運動遊びってどんな授業のイメージ？」など、様々な話題で、一層の親睦を深めることができました。

1 トピックス：「誰もが参加できる体育授業を目指して―「体育嫌い」の声から考える授業づくり―」

（名古屋学院大学 四方田 健二先生）

四方田先生には、2つの内容につきまして、トピックスとしてお話をいただきました。

1点目が「体育嫌い」の声から考える授業づくりということで、2019 年の体育科教育3月号に掲載されたヒャダインさんの巻頭エッセイを話題にしながら、参加者とともに、体育が苦手な児童・生徒対する指導について考えました。

特に、体育を専門としてきた先生方ほど、一生懸命子供たちを指導する余り、体育嫌いをつくっていないか、運動が苦手な子供たち側に立ってものごとを考えることができているのかということについては、深く考えさせられました。

また、2点目では体育科の授業をとりまく、様々な状況を話題にしてくださいました。鹿児島県は、複式の学校の割合が全国1位です。極小規模校の体育の授業については、特にボール運動系の授業づくりの難しさを挙げる先生方が多いです。

2 実践発表：「体育の見方・考え方の具体化と子供のパフォーマンス向上に関する検討－小学校第6学年ボール運動ゴール型の実践から－」

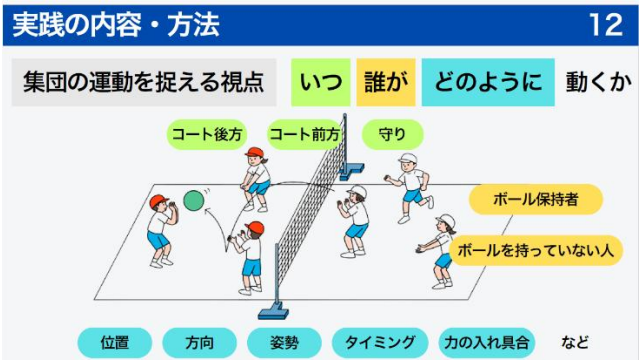
（出水市立西出水小学校 橋元 将大先生）

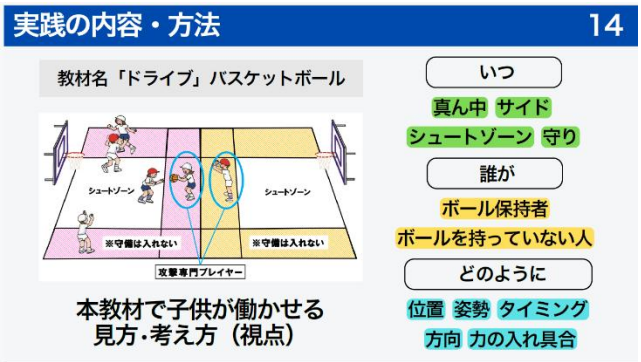
橋元先生には、前任校での実践をまとめて、発表していただきました。

実践の柱は、体育の見方・考え方を「運動を捉える視点」として捉え直し、さらに、それらを個人で運動を捉える視点と集団の運動を捉える視点に整理を行ったことです。 今回は、集団の運動を捉える視点を子供たちが働かせていき、資質・能力の身に付けていくことを想定し、6年生のゴール型、ドライブバスケットボールの実践を紹していただきました。集団の運動を捉える視点を「いつ」「だれが」「どのように」動くかという視点、具体的には「サイド」で「ボール保持者」の「位置」というような視点で捉えることができるようにしていました。このことにより、子供たちは、課題を的確に捉えることができていました。また、課題を捉える際にこれらの視点を基にゲーム記録をタブレット内の共有シートにグループのメンバーで行うような工夫も行われていました。本実践の成果としては、運動の苦手な子供がゲーム状況や動き方を理解し、自分で判断して技能発揮する姿が見られたことが嬉しかったとのことでした。

参加者からは、視点の内容が多く複雑になっているのではないか、ゲーム記録を的確に行えるのか等について意見が

出ました。今後も意見をもとに、更なる実践の深化に努めていただきたいです。

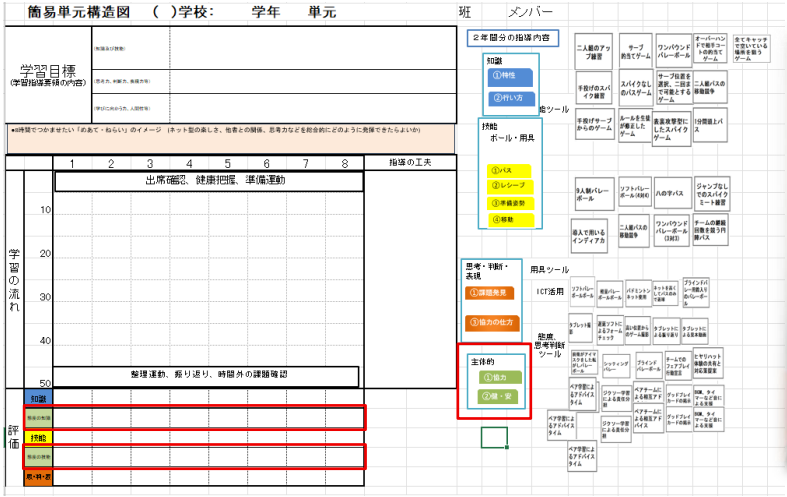




3 グループワーク「高次の資質・能力を育む単元の検討」　*（桐蔭横浜大学 佐藤 豊先生）*

佐藤先生には、体育・保健体育、健康、安全ワーキンググループ第11回終了とともに、来鹿していただきました。「高次の資質・能力を育む単元の検討」というテーマで高次の資質・能力を整理していくまでの背景や過程について、説明をしていただきました。

今回のワークは、全国初ではないかと思われる、「態度の知識及び技能」の指導と評価を単元計画に位置づけるという内容でした。「態度の知識及び技能ってどんな内容なのか。」、「態度の知識及び技能の指導を形式的にならず、子供たちに必要感があるような形で活動を設定しないといけないな。」、「評価する際は、1単位時間で見取ることができるのか。」など、初めての体験に戸惑う姿が多く見られましたが、参加者でアイデアをたくさん出し合い「協力の必要な教材を技能のポイントも含めて子供たちが獲得できる教材にした方がいいな。」、「やはり、数時間かけて、協力する姿が見られるのか観察することが必要だ。」などの意見が出ました。今後、学習指導要領が改訂になり、考えていかなければならない内容で、貴重な体験となりました。



4 おわりに

今回の鹿児島黒豚ラウンドでは、計36人（オンラインを含む）が県内外から一堂に会して、学習指導要領改訂の趣旨や内容ついて理解を深めることができました。御多用にも関わらず、御指導くださいました四方田先生、佐藤先生、準備等でお世話になりました栫先生、松永先生をはじめ、広島からかけつけてくださった清田先生、web や対面で参加してくださったすべての皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。また、開催案内の発出が遅くなり、ご心配をおかけしましたことをお詫び申し上げます。

（報告者：鹿児島県 阿部）